



耳をすませたいその理由

日本型直接支払制度の創設、経営所得安定対策の見直しをはじめとする一連の農政改革がスタートする。一方、越年したとはいえ、TPP交渉も四月が最大のヤマ場となることが予想され、あくまで関税の完全撤廃を迫るアメリカの強行姿勢に予断は許されない。そのTPPと農政改革は別物としながらも、攻めの農政、端的に言えば大規模化で輸入圧力に対抗するとともに、輸出攻勢に転じていこうというのがその“腹”である▼アメリカの土俵に乗って小人がガリバーと相撲をとろうとする如くである。日本が経済原理を持ち出すほどにアメリカにとって好都合、思うツボにはまること必至である。永田町・霞ヶ関と現場のギャップはあまりにも大きく、そして現場の混迷は深い▼こんな折、全中は「地域営農ビジョン」運動のいつかんとして「地域営農ビジョン大賞」なるものを授賞する。支援部門でその大賞を受賞することになったのがJA上伊那である。審査委員長が語るその受賞理由は、「猫の目のように変わる政策には決して振り回されることがない。だが、自分たちが独自に決めた路線に政策が寄り添ってくれば、使える政策や事業はほとんど使っているという」▼あくまで地域営農にこだわり続けていくことが肝心であり、あわせてしたたかに支援を活用していくことが重要である。選定結果のもつ意味は重く、大転換する農政への対応方向を明らかにしているといえる。

(土着菌)